

私たちの施設は、「福祉サービス第三者評価」を活用して、利用者サービス向上のために常に努力しています。

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

事業所名	バウム			第三者評価受審年度	平成30年度
項目	評価結果に基づく現状分析 (平成30年度)	改善計画 (平成30年度末時点)	実施状況 (平成30年度末時点)	実施状況 (平成31年度末時点)	
就労移行支援と就労継続支援B型の中間的な機能を求めるニーズに一層対応していくことが期待されるについて	2つのグループに分割し、各グループの重点テーマをそれぞれ一般就労への準備、福祉就労の充実とすることで、ニーズに対応できるよう取り組んでいる。	一般就労への準備として、個別支援計画に就労へ向けたステップアップ計画を立て、面談や外部実習の参加を行う。また、就労に関する情報提供等も行っていく。福祉就労を充実させるために、作業開拓、作業量の増加による工賃アップを図る。	一般就労の準備としてステップアップ計画の見直しを3か月おきに行い、評価表に基づいて達成度のチェックをしている。また、毎月の面談、外部実習の参加を実施した。就労に関する情報提供のために書籍や資料を用意した。福祉就労の充実では作業開拓、作業量の増加を行った結果、対前年で平均工賃が4千円以上アップし、21,766円となった。		
事業所の特性を生かしながら、地域との結びつきを深めていくことが期待されるについて	公園清掃や外部実習などを通じた地域との繋がりは全体的に少ないと思われる。	毎朝、建物周辺の清掃を行い、通行人への挨拶を積極的にするように、利用者と共に心掛ける。また、近隣の企業等と受託作業契約を行い社会参加、地域との結びつきを深めていく。	建物周辺の清掃については、通行人への挨拶を積極的にするように、利用者と共に心掛け行っている。近隣の企業、保険代理店とのダイレクトメール作業、ヘルパーステーションの清掃業務契約を行った。		
グループ分けにより生じる職員間の情報共有への一層の強化が期待されるについて	移転当初よりは、見守り体制も含め職員間の情報共有等は出来てきているが、更なる連携・情報強化への取り組みが必要と感じている。	①支援計画および支援の実施状況等をミーティングやケース記録等で共有することで支援方針を統一させる。 ②ミーティングや日々の業務におけるコミュニケーションを密に行うことで情報の共有を図る。	利用者情報や支援経過はミーティングや職員会議で共有が出来ており、支援方針の統一が図れている。また、各職員がミーティング等で活発に意見を出し合っており、事業の改善等に効果が出ている。		